

アカシア探検隊

サンフレッチェ広島 J1復帰！

その陰にアカシアの力あり

56回卒 高田豊治氏

株式会社サンフレッチェ広島
常務取締役

ゼネラルマネージャー

今回のアカシア探検隊にご登場
いただくのは、56回卒・サンフレッ

チエ広島のGM（ゼネラルマネー

ジャー）、高田豊治氏です。一年

でのJ1復帰はもとより、3年以内
にJ1での優勝を狙えるチーム作り
を目指して、昨年度から新設され
た初代GMに就任された高田氏に、
早速喜びを聞いてみました。

谷・J1復帰おめでとうございます。

今季を振り返つてのご感想をお願
いします。

高・まずは、1年でJ1復帰を達成
することが出来、嬉しく思います。

J2リーグは44節9ヶ月にわたる
長期のリーグです。加えて、下位
のチームは引き分け狙いの、ゴー

ル前をがつり固めたサッカーを
してきますので、上位チームに
とっては非常に難しいリーグです。

この難しいリーグを乗り越えた
監督以下、選手、チームスタッフ
及びフロントの努力と、苦境に
陥った時も暖かく支えていた大い

た数多くのサポートと地元メ
ディアの方々に、心より感謝申し
上げたいと思います。

谷・来るシーズンへ向けての意気
込みをお聞かせください。

高・サンフレッチェは今シーズン
を迎えるにあたり、「1年でJ1復帰
し、3年後にはJ1で優勝を目指
す！」という目標を掲げました。

今年はその目標へ向けての第2
ステップの年にすべく、チーム強
化を図りたいと思います。

ここで、高田豊治氏の略歴を改
めて紹介しておきましょう。
これまでサンフレッチェのG
Mとして、あるいは総監
督として果たしてこら
れました。今西氏が第
一線を退いた後のチ
ーム作りは織田秀和強化
部長（70回卒）を中心
に行われて来ましたが、
更にチームの強化を図
る為に人材が必要であ
る、との判断があつた
ものと思われます。



高田豊治氏

高田 豊治（たかたよしのぶ）氏

1948年生まれ（56回卒）

1971年に東京教育大学を卒

業後サンフレッチェの前身である

東洋工業でプレー。82年に引退し

てマツダSCのコーチに就任。そ

の後マツダの社員として札幌マツ

ダの監督やサンフレッチェの育成

部長を歴任されました。96年に日

本サッカー協会に移ってJヴィ

レッジの副社長に就任。協会理事

やJリーグマッチコミッショナー

委員会委員長等を務めてこられま

した。

これまでサンフレッチェのG
Mとして、あるいは総監

督として果たしてこら
れました。今西氏が第

一線を退いた後のチ
ーム作りは織田秀和強化

部長（70回卒）を中心

に行われて来ましたが、
更にチームの強化を図
る為に人材が必要であ
る、との判断があつた
ものと思われます。

地元の中国新聞の記
事でも高田氏は「経験

豊富で広島の事情にも
精通している」と報道

されています。確かに

経験を見ると選手とし

て、指導者として、經
營者としての経験を積
んで来ておられ、協会

とのパイプもお持ちです。従つて

サンフレッチェとしては「強化、
経営の両面でクラブ運営を担う」

という点でなかなか得難い人材を
獲得できたと言えるでしょう。良
い例が現在売り出し中の若手、高
萩洋次郎選手の獲得。彼はJヴィ
レッジがある福島県広野町の出身
で、彼の獲得には勿論高田氏が関
わっておられた事と思われます。

このところ有望な若手選手を
次々と獲得してきた織田氏を中心
とする強化部は健在であり、また、
事業本部には谷本園之副本部長

（53回卒）、田村誠部長（60回卒）ら
がおられ、経営面、チーム力強化
と着々と改革を進め、一年でJ1復

帰を果たしたサンフレッチェには
間違いなくアカシアの力が大き
く働いていると言えるでしょう。

谷・意外な事に、小学生の時は野
球少年だったとか？

高・実はそうなんですよ。家の近
くに社会人野球で活躍されていた
方が住んでおられて、熱心に指導
してもらいました。夢は勿論「プロ
野球選手」だったわけです。

谷・それがまた、どうしてサッ
カーチームへと夢が変わったのです
か？

高・中学時代は最初キーパーを
やつていましたが、2年生から
フィールドになりました。当時の

思い出としては、キーパーとして
出た最初の試合でいきなり2点取
られてしまつて、泣きべそをかいて
いたら3年生がすぐに4点取り返

してくれたことですね。それと
チームのリフティング記録を塗り
替えて先輩にうどんをおごつても

らつた事も憶えていますね。

高・ある試合を観戦した事が私の
人生を決定したんですね。それは
附属小学校五年生の時のことです。

中学生がゾロゾロと行列をなして
いますね。後の私の指導者としての

何処かへ出かけようとしている。

それに連れられて国泰寺高校のグ
ランで行つたのです。附属対舟

入の全国大会県予選準決勝の全校
応援に参加したわけです。生まれ
て初めて見るサッカーの試合でし
たが、その試合にはサンフレッ

チエ前監督の今西さん（舟入高
校）が出場されており、今思えば
まさに運命的なものを感じます。

そして翌日の決勝戦も応援に行
きました。国体優勝チームの山陽
高校を見破つて優勝。試合後、
応援団に整列して挨拶する選手た
ちの勇姿に感動し、それを見守る
女子生徒たちがウルウルするのを
見て、私のハートは、氣に燃え上
がりました。「中学に入つたらサッ
カーチームだ！」

谷・中学高校時代の思い出をお聞
かせ下さい。

高・中学時代は最初キーパーを
やつしていましたが、2年生から
フィールドになりました。当時の

思い出としては、キーパーとして
出た最初の試合でいきなり2点取
られてしまつて、泣きべそをかいて
いたら3年生がすぐに4点取り返

してくれたことですね。それと
チームのリフティング記録を塗り
替えて先輩にうどんをおごつても

らつた事も憶えていますね。

高・高校時代は3年の時に県大会で
優勝できたんですが、やはり思い
出としては、福原翠三先生のお姿

です。後の私の指導者としての

あり方に少なからず影響していました。先生は非常に熱意にあふれた方でした。職員会議が終わってすぐにグランドに駆けつけられ、スケーツ姿のままで土にまみれて指導される事もしばしばありました。

また、本質的なことを生徒に見せる、考えさせる、やらせることをモットーにしておられたように思います。良い例が、岩波文庫の「自由と規律」という本をポケットマネーで我々に配られ、「よく読んでおけ」とだけおっしゃった事です。行動の選択も、結果の受け取りも自己責任でやれと無言の内に伝えてくださったと思います。

谷・卒業後は、東京教育大学、東洋工業（マツダ）へと進まれたわけですが。

高・大学へは一年浪人して入りました。

それもいわゆる宅浪つてやつです。自分で考えて、基礎から勉強しなおしました。今振り返ると、この経験が随分役に立ちましたね。特にラジオで聞いた英会話は、社会人になってサッカーの指導者となつてから役に立つたと思います。

大学入学後は、またサッカーになりました。

没頭し、関東大学リーグで2連覇したり、大学選手権で優勝したりと、いい思い出を作ることが出来ました。

全日本学生選抜に選ばれたことであつて当時全盛期だった東洋工業に入社できたと思います。當時

のチームはそれこそアカシアだらけで随分とかわいがつてもらいましたし、心強く思いました。谷・30歳で現役を退かれた後、指導者の道に進まれましたね。

高・すぐに指導者になつた訳ではないんですよ。数年間はサッカーから離れて車の営業をやりました。これも貴重な経験でした。（セールス・エキスパンション）

といって、マツダから営業販社へ出向して車の販売をやつたわけですが、最初は全然売れませんでした。でも、営業所の責任者が素晴らしい方で、営業プロセスをしっかり見極める事の出来る方でした。きちんと基礎を固めてからでないとかえつて失敗する事を教えていただきました。

お陰でしばらくしてからは、ずっと営業成績トップでいられましたし、指導者となつてからも、この経験が生きています。

後にマツダのサッカーチームに戻つて出会つたオフトも同じ事を強調していました。「基本を大事に、合理的、論理的に考え方行動する」「失敗したら基本に戻る」などで



田村・高田・谷本・織田各氏(左から)

谷・アカシアのメンバーの皆さんにメッセージをお願い致します。

高・私が人生の節目、節目で出会った方々は、みな熱意を持って行動しておられました。アカシアのメンバーの方々もこのところは注意して欲しいですね。

谷・母校の移転、存廃問題についてもコメントをお願いします。

高・エーッ、なにそれ！そんな問題があるんですか？まさか。そんな事知らなかつたなあ。

勿論存続してもらわないといけないし、中国地方の中核都市である広島にないといけないと思いません。単にアカシアの母校というだけなく、広島全体の教育問題として考えないといけないと思いません。ですが、その前にもっとこの問題の事をアカシアのメンバーに知つてもらわないといけませんね。私も今まで知らなかつたんだから。

谷・更なるサンフレッチェ広島の飛躍と高田先輩のご活躍をお祈り致します。

甲斐
谷口公啓
(73)
稔(63)

手にとって確かめることができない物だからこそ、私たちが大切にしているのは、信用と技術です。
創業以来培ってきた実績と確かなノウハウで、快適な環境づくりを目指します。

株式会社 大方工業所

空気調和・冷暖房・給排水衛生設備 その他管工事

本社 〒732-0802 広島市南区大州2丁目15番8号 TEL(082)282-4301 FAX(082)286-0603
支店・営業所 九州・北九州・宇部・下関